



新春を迎えて

せたな町長 高橋 貞光

新年あけましておめでとう
ございます。

町民の皆様には、希望に満ちた新春を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。また、平素、新町のまちづくりで暖かいご協力とご理解を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、最大の出来事は何と言っても3町の合併であります。

9月1日、旧大成町・北檜山町・瀬棚町が町民の皆様の大きな期待と暖かいご理解のもとに合併し、檜山管内最大の新「せたな町」が誕生しました。11月27日には盛大に合

併記念式典が執り行われ、新しい町のスタートを祝い、勇気をもって試練に立ち向かって行く決意を新たにいたしましたこととあります。

農業は、前半、天候不良により農作物の生育に遅れが見られましたが、7月からの天候回復により順調に推移し「並」以上の生育状況となりました。しかし、豊作により需給バランスが崩れ、米価をはじめ他の農作物につきましても価格が低迷し、農家経済に大きなダメージとなりました。

今後は、平成19年度から導入する品目横断的経営安定対

平成18年 新年のごあいさつ

地域バランスを考えたい行財政改革を

町民の皆さまとともに

策、農地・水・環境の保全対策、米政策改革推進対策の見直しに対応するため、農業関係機関・団体と協力し、農業振興対策を考えて参ります。

水産業は、一昨年を上回るサケの豊漁に浜は活気づきましたし、イカについても平年並、しかし、ウニについては身入りが悪く残念な結果となりました。また、ナマコについては高値で輸出されることから、今後においても期待できるところでございます。

漁価の低迷や海洋環境の変化など水産を取り巻く環境は極めて厳しい状況ですが、「つくり・育て・売る」漁業への転換を図るべく、漁業者の皆さんと十分話し合い、水産業の振興を進めて参ります。

商工建設業につきましても地域経済の低迷が依然続いており、消費者の購買力が伸び悩んでおり、公共事業の削減による工事受注量の減少、そして、雇用不安といった状況の中で、さまざまな経営努力

をされ、困難に立ち向かっておられることに敬意を表します。

商工会事業に対する協力はもちろん、町の計画的な事業の発注をはじめ、国・道に要望している事業の確保により景気回復に努力したいと考えています。また、国内最大級の2千kw風車6基を有するウインドファームが運転開始するなど、新たな民間資本の参入にも期待しております。

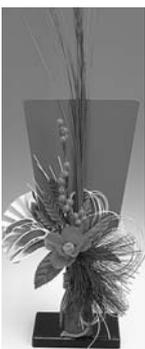
教育関係につきましても、大成高校の平成18年度募集停止にともない地元高校への通学費の軽減や、北檜山小学校の改築工事につきましてもすでに着工しており、平成20年度の外構工事をもって完了予定となっております。

瀬棚区においては、認知症のお年寄りためのグループホームの完成を始め、地域包括支援センターの平成18年度設置など福祉・医療の分野でも一層の充実に努めて参ります。

一方、道道北檜山・大成線の北成トンネルが10月17日に貫通し、全線開通に向け大きな前進となりました。防災面につきましても、越波対策や北檜山区の防災無線の設置等、社会生活基盤の整備についても進めて参ります。

今回の合併は決してゴールではなく、新しいまちづくりのスタートであります。産業の振興・行政サービスの向上・財政の健全化に向け、さらには公平・誠実・融和をもって地域バランスを考えたい行財政改革を町民の皆様とともに進めて参ります。今後とも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、町民皆様にとりまして良い年でありますよう、心からご祈念申し上げます。念頭のご挨拶といたします。



新しい町の新年にあたり

せたな町議会議長 柳田 眞

町民の皆様、あけましておめでとございます。

今年も良き一年でありたいと願う戌年の年頭にあたり、新生せたな町議会議を代表して謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、ご家族お揃いで「ご健勝にてつつがなく年を越され、思い新たに良いお年を迎えられましたこととお慶び申し上げますと共に、せたな町議会にいただいております深いご理解とご協力に心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年九月一日、旧三町がそれぞれの思いを胸にして合併町となりました。

そして、十一月二十七日の新町誕生記念式典の日、真新しい町章が染められた町旗を目の前にして、つい二年前前までは想像もしなかった合併が現実となった旧三町の歴史、伝統、文化を見つめてきた町旗の重さを改めて感ずるものであります。

そして、新しい歴史をつくる大きな責任をも自覚しながら歩まなければと考えます。

新年にあたり

せたな町教育長 久保 一

新年明けましておめでとございます。

町民の皆様には、さすががしく平成十八年の新年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

昨年のわが国は、政治・経済をはじめとして、「三位一体の枠組みを超えて」「三位一体改革」の実現など様々な分野において転換が求められ、地方の主体性をより一層発揮することの出来る新しい社会の実現に向けた取組みが進められております。

教育の分野におきましても制度を柔軟に運用した新たな学校づくり、また、学習機会の拡大やその成果を適切に評価する生涯学習システムの構築など各種施策の展開が求められております。このような社会情勢の中で、何と云っても明るい出来事としては、全国高等学校野球大会二連覇という大偉業をなし遂げた駒大苫小牧高校球児の活躍は、私たちに感動と勇気を与えてくれました。

しかし一方で、広島県、栃

木県と相次いで下校途中の小学校女子児童が殺害されるといふ衝撃的事件が発生し、子どもの安全確保について喫緊の課題となっております。

さて、本町をめぐる諸情勢を顧みますと、何よりも様々な難題を乗り越えて北檜山町・瀬棚町・大成町の合併が合意され、新たな町「せたな町」が誕生したことであります。この合併に伴って、新生せたな町の教育は学校教育では、学校数が幼稚園から高校まで一挙に十七校、児童生徒数は九百五十七人、教職員数も百七十人となり、如何にして「せたな町の教育」を発展、向上させるかということに責任の重さを痛感しております。

一方、社会教育の分野においても、それぞれの地域には歴史と文化・伝統があることから一概に組織や団体の統廃合は難しいものもあります。

今後、相応に時間を有して「やれるもの」「やれないもの」を見極めながら、バランスのある教育行政を推進して



風が続く日や平坦な道のでないことは覚悟いたしますが、苦勞して互いに譲り合つてこぎつけた新しい町が、苦勞のかがいがあったといわれる町づくりのために、議員一同皆様のお力をいただきますが、自信と信念と勇気をもつて、しっかりと取り組んでまいります。

そして、先人が苦勞をして賑わいを作り上げた一次産業の町が共に力を合わせて発展されるよう、今後にかける思いにご期待いたします。

せたな町議会議に對し、さらなるご協力とご理解をお願いいたし、町民皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



いくことが大切と考えております。

今、社会全体に閉塞感が漂うなかにあつて、教育に求められているのは未来を担う子どもたちへの投資であります。せたなの子どもたちが夢と希望を持って明るい未来を切り拓いていくことができるよう教育委員会としても学校、家庭、地域とより一層の連携を図りながら努力を傾注しなければならぬと新年に当たり意を新たにしているところであります。

町民皆様におかれましても、これまで同様にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに皆様のご多幸を祈念し、新年のご挨拶とします。